



浜田水産高校「同窓会会報」



〒 697-0051

浜田市瀬戸ヶ島町 2 5 - 3

TEL 0855-22-3098 Fax 0855-23-4811

E-mail hamasui-01@shimanet.ed.jp

H P http://www.shimanet.jp/hamasui/

携帯 HP http://www.shimanet.jp/hamasui/keitai/



会長あいさつ

浜水会会長 山崎 晃

会員の皆様におかれましては、全国各地で日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は、母校及び同窓会「浜水会」の発展のため物心両面のご高配を頂き厚く御礼を申し上げます。

びます。

私は、平成 20 年 9 月に第 4 代目の会長に就任しました。就任に当たり 4 つの目標を立てました。そして、①会員名簿の発行②広島支部、松江支部の再度の設立③同窓会報「翠香」の発行を実現してきました。4 つめの浜水会単独総会の開催につきましては、一昨年の役員総会で開催の方向でご承認を頂きました。昨年 6 月 29 日に第 1 回の代表実行委員会を開催して準備を進め、これも数回開催しました。本部からの経費はあまりかけず、郵券代も使わず、代表委員の皆さんに参加希望の勧誘をお願いいたしました。卒業生の皆さんからの苦情も覚悟の上で進めさせていただきました。11 月 23 日（日）3 年に 1 回の「総会・懇親会」を、ジョイプラザで開催することができました。参加人数は 134 名と目標に届きませんでしたが、盛大に開催することができ、また、関西浜水会より 2 名、広島支部より 4 名、松江支部より 7 名のご出席を頂き花を添えて頂きました。その中には、ご夫婦が 2 組、親子 1 組の参加があり、大変嬉しく思いました。総会・懇親会の開催に対して卒業生の皆様から事務局に、案内の方法に対しての苦情も来ておりましたので、反省会を開催し 3 年先の開催を目指したいと思ひます。

昨年、10 月 5 日（日）ホテルニューオーサカに於いて、関西浜水会「20 周年記念総会・懇親会」が盛大に開催されました。関西浜水会は、平成 17 年 1 月 17 日、午前 5 時 46 分に発生した阪神淡路大震災を契機に 2 府 5 県で設立されました。歴代会長の梅津 正様、榎上英人様、松永忠勝様、三谷繁尚様、田野 博様のお喜びもひとしおかと思ひます。私は、懇親会で余興として浜田節男踊りを披露させて頂きました。

次は悲しいお知らせをお届けします。12 期漁業科卒業の三隅支部長、吉田千昭君の逝去です。吉田君とは同じクラスで、若潮丸（木造船 62 トン）の漁業実習で苦楽をともに、船乗りを目指して船酔いに負けじと、大声で校歌を唄い頑張った仲間でした。吉田千昭君は、三隅町議を経て浜田市議となり、4 年間でしたが私も浜田市議として、彼と一緒に浜田水産高校の単独存続、浜田市政発展のために頑張りました。吉田千昭君のご冥福をお祈りいたします。

平成 24 年度の事業で、70 万円で作製した校歌と応援歌の CD（千円）の販売に私自身も取り組んでおります。卒業生の皆さんも事務局に問い合わせ頂き、同窓会等の開催時にご購入頂けたら大変喜びます。

母校を取り巻く状況は、少子高齢化により入学者定員確保が最大の課題となっておりますが、現状では定員確保が毎年厳しくなっております。定員 80 名に対して 60 名は確保できるように教職員や PTA、そして卒業生のご協力を願っております。

2 月 28 日（土）に浜水会入会式に参列しました。卒業生は海洋技術科が 19 名、食品流通科が 28 名の 47 名でした。専攻科は漁業科 4 名、機関科 4 名の 8 名の修了生でした。3 月 1 日（日）の卒業式には残念ながら所用で参列できませんでした。今春の卒業生は 47 名であり、就職が 36 名（県内 30 名（うち浜田・江津 29 名、他 1 名）県外 6 名）、進学は専攻科 10 名、専門学校 1 名となっています。漁業後継者は、吉勝漁業・裕丸漁業・あけぼの水産・祐生丸の 4 名でした。専攻科修了生は 8 名で、七洋船舶・山友汽船・英雄海運・日本海港運・サンイーストポートサービス・八馬汽船・内海曳船と聞いております。海洋技術科では 19 名の内、専攻科進学者が 10 名と船関係が 6 名でした。これはすばらしい実績だと思います。また、専攻科生は 8 名全員が船関係に就職されます。後輩の生徒達のためにもそれぞれの会社で頑張つて欲しいと願っております。終わりに、浜田水産高校のますますの発展と、会員の皆様のご多幸とご健勝を記念いたしますと共に、浜水会の発展のためいっそうのご指導をご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



山崎会長による余興『浜田節男踊り』



翠香第 16 号発刊に寄せて

学校長 池田 速人

浜田水産高校同窓会「浜水会」会員の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、本校教育活動に対し、ご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成 27 年 3 月 1 日の卒業式・修了式では本科生 47 名、専攻科生 8 名がこの瀬戸ヶ島の学舎を巣立ち、新たに同窓会の会員となりました。（その数は、本科卒業生 6142 名、専攻科修了生 490 名です。）先輩諸兄の温かいご支援とご指導をお願いいたします。

本校では、ここ数年来、戦略的に地域定住と地域を支える人材の育成を目標としてきました。昨年の翠香第 15 号でもお話ししましたが、本年度も卒業生の 83% が地元の水産加工や製造業を中心に就職していきました。中でも、巻き網や底曳きを中心に 4 名の漁業後継就業があったことは特筆すべき数字です。今や、若者の地元定住は県の重点施策となっていることを考えますと、本校卒業生への期待と水産教育の素晴らしさを感じざるを得ません。



食品流通科実習棟
新たな加工食品を研究しています。

学校施設整備状況は、体育館の内部改修及び外部改修、艇庫外部改修、海洋技術科棟の内部及び外部改修、食品流通科棟の内部及び外部改修、寄宿舎の増改築、校舎本館棟の外部改修も本年度で完工しました。平成 27 年度は体育館フロアの張り替え及び内部改修のみを残すのみとなり、学校も一新しました。財政難の折ではありますが、関係各位のご尽力に寄りまして、着々と施設整備の充実も図られています。

本校にとりましての喫緊の課題は、生徒募集・生徒の確保に他ありません。浜田市においても現在、「県立高校の在り方検討委員会」を立ち上げ、将来的な県立高校の再編成をめぐる議論がなされていることは、ご承知のことかと思えます。水産高校の存続を期して、ご協力をお願いするとともに、同窓の皆様並びに関係者の皆様のご子息がいらっしゃいました

ら、ご紹介の程、切にお願いする次第です。



外部改修を終えた校舎棟と体育館

結びにあたり、私の好きな言葉、作家の内田たつるさんの文章を紹介します。「学校や教師の役割は卒業生にとっての母校であり続けることである。遠く、暗い海を航海している時、ふっと振り返ると、遠くに母校の光が見える。それが卒業生達を励まし、勇気づける。」私も全く同じ思いでいます。改めて、学校や教師は変わることなく灯りをともし続けなければとの想いを新たにしているところです。「母校愛に満ち、この瀬戸ヶ島の丘から、校歌を声高らかに歌うことができ、汗をかくことをいわず何事にも一生懸命取り組むことのできる浜水生。」私の理想とする生徒像です。今後とも永遠に浜田水産高校の灯りをともし続けていくためにも、何卒、同窓会「浜水会」の皆様のご理解とご協力をお願いいたして、挨拶とさせていただきます。



木造の原動機実習室。まだ現役です。

平成 26 年度 浜水会総会・懇親会

日時：平成 26 年 11 月 23 日 11:00 ～ 14:30

場所：ジョイプラザ

今年度は 3 年毎に開催する総会の開催年にあたるため、上記の日時・場所において総会・懇親会を開催しました。特に今回は総会後に懇親会も開こうということで、6 月から実行委員会を立ち上げて準備をしてきました。当日は関西浜水会、浜水会広島支部、松江支部の代表をはじめ、131 名の会員に出席して頂くことができました。実行委員として携わ

って頂いた皆様、そしてお忙しい中、総会・懇親会へ出席して頂いた会員の皆様へこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

総会議題

- ・平成 23 年度～25 年度事業について
- ・平成 23 年度～25 年度決算について
- ・平成 26 年度事業計画（案）
- ・平成 26 年度予算
- ・その他

浜水会本部では、毎年役員会を開催し、年度毎の事業や予算・決算について審議をし、承認して頂いています。従って今回の総会では、前回の総会が行われた平成 23 年度以降の事業・決算についての報告と、平成 26 年度事業と予算案について審議、承認されました。

次回の総会は平成 29 年度に実施する予定です。一人でも多くの会員に出席して頂けるように、役員・事務局で準備したいと思います。



山崎会長開会のあいさつ

懇親会

山崎会長(12F)あいさつに続き、吉中浜水会顧問(3F)の乾杯で懇親会がスタートしました。卒業年次の近い会員でテーブルを囲んで頂いたの、懐かしい顔が並び、それぞれ昔話に花が咲いたことだと思います。

会も盛んとなった頃、遠方より参加して頂いた関西浜水会、広島支部、松江支部の皆様よりご挨拶を頂きました。浜田を遠く離れた地であるにもかかわらず、同窓会活動を盛んに行っておられる皆様の熱気と、母校への思いを感じることができました。地元から参加された会員の皆さんは、浜田も負けてはおられないとの思いを強くされたのではないのでしょうか。

引き続き事務局より、学校の近況について説明がありました。そして会の終わりに出席者全員で校歌を斉唱した後、大崎副会長(7F)の閉会の中締めで懇親会を終えました。次回の再会を約し皆さんそれぞれ会場を後にされました。



関西浜水会
井上事務局長(10P)

松江支部
佐々木支部長(10E)



広島支部の皆さん
左から中川顧問(10P)、島田支部長(15P)田中副支部長(17P)、舛田事務局長(18P)



校歌斉唱

広島支部総会・懇親会

日時：平成 26 年 7 月 13 日（日）12:00 ～ 16:00

場所：ホテルセンチュリー 21 広島



平成 26 年度 広島支部総会

役員改選

(新任) 理事 小加本 典義 (27 F)

亀田 耕司 (31 E)

(退任) 理事 岡野 岑生 (11 F)

議題：平成 25 年度会計・監査・行事報告・質疑応答
その他

【参加者：来賓】

12F 山崎晃(浜水会会長)

27F 中田浩一(浜水会事務局)

【参加者：会員】

3F 栗山利男(福岡)・4F 小林義久・5F 中村政一

7F 永井敏和・8P 佐々木元弘・10P 中川平介

宮脇 勝・佐々木博・11P 井上範昭

15P 島田秀男(支部長)・15P 西尾朝雄・橋岡茂徳(福岡)

16P 河田英司・佐藤 隆・17P 森川孝雄・小川耕次

田中輝隆(副支部長)・18P 舛田 隆(事務局長)

岡本廣志

24P 水野重敏

25F 野崎俊明

26F 前原正和

36E 上野正樹

広島支部では総会までに
3 回の役員会
を開き、準備
をしておられ
たようです。

年 1 回の総会を支部の最重要行事と位置づけておられるのが伝わります。事務局としても可能な限りお手伝いしたいと考えています。

広島支部総会・懇親会は、毎年 7 月上旬に行っています。参加者は広島在住の方に限りません。参加希望をされる方は広島支部事務局長の舛田 隆さん(TEL.082-879-7168) まで連絡してください。



関西浜水会総会・懇親会



関西浜水会 20周年記念総会・懇親会 平成26年10月5日 於 ホテルニューオーサカ

日時：平成 26 年 7 月 13 日（日）11:00 ～ 14:00

場所：ニュー オオサカ ホテル

議題：会務報告・平成 25 年度会計監査報告・本部総会・懇親会について・その他

【参加者：来賓】

池田速人(浜田水産高等学校 校長)

12F 山崎晃(浜水会会長)・8P 樋口善吾(名誉会員)

10E 佐々木宣義(松江支部長)

【参加者：会員】

2F 田中 強・2P 舛上英人・5P 吉川五朗

6P 三谷繁尚・7P 東 義人・湯浅 勲

8P 濱田耕一・井上美智代・10F 大矢博文

10E 河野繁喜・佐々田洋・島内清美・辻岡 茂樹

10P 大矢勝彦・田野 博・井上稔義

11P 森藤須賀子・寺戸信吾・浦田準次・村永 剛

花見静夫・山崎 勉(広島)・12F 寺戸正憲

12P 坂井和夫・13P 大畑賢二・藤沢敏子

島田達児・林 美枝子・16F 石橋克幸・中森 稔

16P 村上義幸・17P 白川克範・田中輝隆(広島)

19P 山田恵総・21P 澄川秀幸・28P 小玉喜子

30P 松林郁子・32E 江川達也

関西浜水会総会・懇親会も、今年で 20 回の節目を迎えました。今回は松江支部長の佐々木さん、広島支部会員山崎さん、同じく広島支部副支部長の田中さんも参加され、支部間の交流も始まりました。阪神淡路大震災を契機に設立された関西浜水会が、今後さらに継続・発展するよう願います。



竹下信子さん・久山 薫さんによる楽器演奏

同窓会開きました



13期製造科の同窓会を6月7日、神戸市（たむら）で開催しました。

同窓会を計画しておられる卒業生の皆様、参加される方へ学校の様子を知らせるための資料が必要であれば、事務局へ遠慮無く連絡して下さい。『浜水だより』『海洋技術科通信』等の情報を提供いたします。

浜田水産高校・浜水会＝近況のお知らせ

（15F 卒 中村洋一）

平成27年3月。学校は1年の仕上げの時期を迎えている。同窓会のお世話係り一人として、この1年の浜田水産高校と同窓会の出来事について、思いを馳せている。私流の観察記録であることをお許しいただきたい。今回の寄稿の目的は、卒業生として、また同窓会の会員の一人として、浜田水産高校・浜水会は、自分の思いの中でどのような位置にあるのか知りたいと思い寄稿した。私は、15期Fとして、昭和37年春から40年春まで在学。F科教員として昭和47年5月から64年春まで在勤。しばらく別世界で勤務して定年退職。平成21年に3期先輩であり、浜田水産高校とともに教職にあった、現浜水会会長山崎 晃さんの誘いで浜水会のお世話係の一人になり今日に至っている。

ここ数年、広島支部や関西浜水会の皆さんとの交流を重ね、浜水会の活性化に汗を流してきた。島根県内の各支部の活性化に目を向けることを目指し、佐々木宣義松江支部長始め支部会員の皆さんの全面的なご協力を頂き、昨年11月23日、浜水会総会・懇親会をジョイプラザ（浜田市真光町）で開催することができた。実行委員会形式という形での呼びかけであったため、会員諸氏の思いを満足させる状況でなかったことは反省材料となった。しかし、広島支部・関西浜水会・松江支部・浜田近辺の同窓生が一堂に会するという、これまでになかった浜水会総会・懇親会の開催は、出席して頂いた同窓生（約135名）の方々には、十分納得していただける状況であったと思っている。

さて、浜田水産高校・浜水会の将来はどのように進むのでしょうか・・・時代によって違いはあるが、大ざっぱに回顧すると水高300名という規模が今までの大体のイメージではなかったかと思う。少子化となり2学級規模の学校となり、現在では、全学年150名程度の生徒数の学校となっている。そのような状況であっても、資格取得に励み、地域産業の働き手育成ではだんとうの実績がある学校となっている。本科生の時代に、大型水産練習船で太平洋に出かけて実習し、ハワイなどに寄港して見聞を広めるなど、他校にない教育が受けられる学校になっていることは、嬉しいことである。生徒の保護者に卒業生が多いことにも、今日の浜田水産高校存続の理由の一つと考えられる。



ホノルル港に係留する『神海丸』
（アロハタワーより撮影）

さて、人は、誰も物事の発展・隆盛を願うものではあるが、現実の世界は、生老病死の消滅サイクルを初めとして、家族・職場・社会の形は私たちの願いとは逆の方向に向かっている感じである。浜田水産高校・浜水会にかかわる一人として、どのような夢を抱くことができるか？という思いが浮かんてくる。浜田水産高校の方は、現在の生徒・保護者（PTA）・教職員に考えてもらえれば幸いである。浜水会については、山崎 晃浜水会会長のリーダーシップの下で、お世話係り諸兄が力を合わせて、会員諸兄が一人でも多く同窓会行事等に参加してもらえるような行事を考え、呼びかけていく、その具体的な動きがまず第一だと思っている。

学校は、数年先には、開校70周年を迎えることになる。同窓生の多くにとって、当時の恩師の姿はほとんど見られないことと思うが、時代を生き抜いてきた学校が美しく存在している。土手の桜の気は大きく成長し今年も美しい桜花を咲かせることと思う。同窓会の事務局は、山本省三事務局長（29期F）をはじめとして、卒業生の教職員の多くが事務局員として、同窓会用務を行っている。同窓会会員の皆様には、時期の良い時、学校行事で盛り上がる時に、是非、学校において下さい。行事にご参加下さい。当時の思い出を楽しく共に語り、これからの浜田水産高校・浜水会の歩みに同窓会諸兄のご提案を頂けるなら幸いである。

平成 26 年度学校の様子

インターハイ出場



平成26年度県高校総体で弓道部の山藤ちひろさん（食品流通科3年）が女子個人戦で優勝し、南関東総体（インターハイ8月7日～10日、東京武道館）へ出場しました。予選は通過しましたが、残念ながら決勝へは進めませんでした。

神海丸出港式



9月12日（金）に神海丸の出港式が浜田港で行われました。本校からは、海洋技術科2年生21名と専攻科1年生7名、指導教官2名が乗船し、平成26年度第1次遠洋航海実習（マグロ延縄実習）に出発しました。実習生を代表して唯一の女子生徒、前田麻美さん（弥栄中出身）が挨拶をしました。

食品流通科の活動



（島根ふるさとフェアin広島） （にほんばし島根館：東京）



（紺屋町アンテナショップ） （ゆうひパーク浜田）

食品流通科では教育活動の一環として、様々な販売活動に取り組んでいます。卒業生の皆さんも機会があれば食品流通科の実習製品を購入してみてください。とてもおいしいです。

広島土砂災害義援金



生徒会執行部で体育祭で募った義援金と図書部が水高祭で売り上げた古本市の売上金を、浜田市を通じて被災地に送りました。

生徒会執行部から清水孝晃君と山田愛恵さん、図書委員会から浅浦知愛さんが出席。義援金を久保田章市浜田市長に手渡しました。

平成 26 年度課題研究発表会

「いわみーる」を会場に、平成26年度課題研究発表会が行われ、海洋技術科・食品流通科の3年生が課題研究で取り組んでいる内容を発表しました。どの班もすばらしい研究発表でした。来賓の方々からも「良い発表会だった」との感想をいただきました。



【研究テーマ】

海洋技術科

漁業班：SUIKO PROJECT（漁具、漁法の研究）
養殖班：フリー配偶体技術を利用したワカメ養殖の実践と普及
物作り班：ものづくりとソーラーボートの復活
海洋調査班：浜田沖人工漁礁効果調査

食品流通科

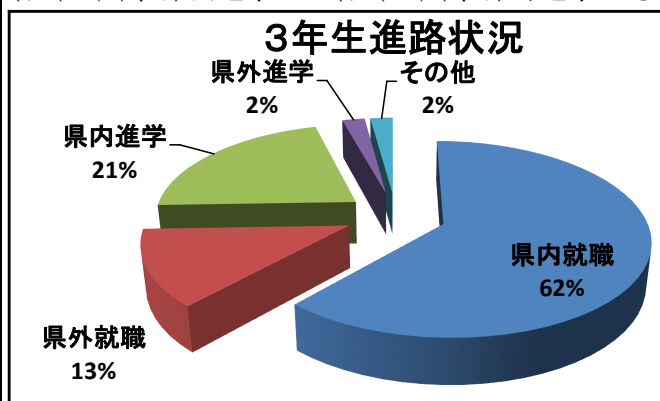
早川班：ウチワエビを利用した商品開発
山村班：ブリ肉を使ったレトルト食品開発
白井班：ブリの血合肉を使った商品開発
吉田班：実習から出る残滓の利用を考える



平成 26 年度の進路状況（学校通信より）

景気の緩やかな回復と人手不足により、企業からの求人が増加しているのは皆さんご存じのとおりです。本校においても昨年度に比べると件数にして約1.7倍、378件の求人が届きました。しかし、求人数が多くなっても採用内定へのハードルが低くなったわけではありません。企業の中には受験者が1人しかいなくても、合格レベルに達していなければ採用せず、来年まで新規採用を見送る場合もあります。採用試験をクリアするためには、それなりの力が必要となるのは間違いありません。

それでは進路状況について説明します。下のグラフは3年生の進路状況を示したものです。47名の卒業生のうち、県内就職が29名（62%）、県外就職が6名（11%）、県内進学が10名（21%）、県外進学とそ



の他がそれぞれ1名（2%）ずつとなっています。

就職者のうち、地元（浜田・江津地域）を中心に県内へ就職する生徒の割合は82.9%となり、今年度も高くなりました。この傾向は今後も続くのではないかと思います。

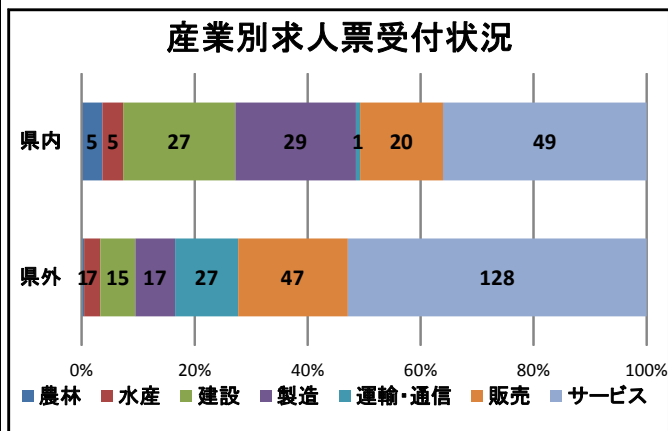
海洋技術科は卒業生19名のうち、専攻科進学者10名を除いた9名が就職となりました。就職先は農林業（江津市森林組合）1名、漁業（吉勝丸、裕丸、浜田あけぼの水産、祐生丸）4名、建設業（拓洋建設）1名、船舶乗組（神原タグマリンサービス、七洋船舶）2名、船舶整備（ヤンマー船用システム）1名となりました。今年は漁業や船舶関連産業への就職者が多くなっています。

食品流通科は専門学校進学者1名と、その他1名を除いた26名が就職します。内訳は建設業（ジンザイスチール）1名、食品製造業（エムエスフーズ、若女食品、大磯）6名、製造業（デルタ・シー・アンド・エス、ロビンベット、浜田工業、シンカー）9名、販売（大起社）1名、宿泊・飲食業（玉造皆美、ワシントンホテルプラザ、むさし、藤丸）4名、介護福祉（三和会）1名、生活関連サービス（岩多屋、中央商事）4名となっています。食品製造を含めた製造業が15名と半数以上を占めました。

専攻科生は1月末現在で内航海運（山友汽船、英雄海運）2名、タグボート（日本海港運、サンイーストポートサービス、内海曳船）3名、漁業取締船（七洋

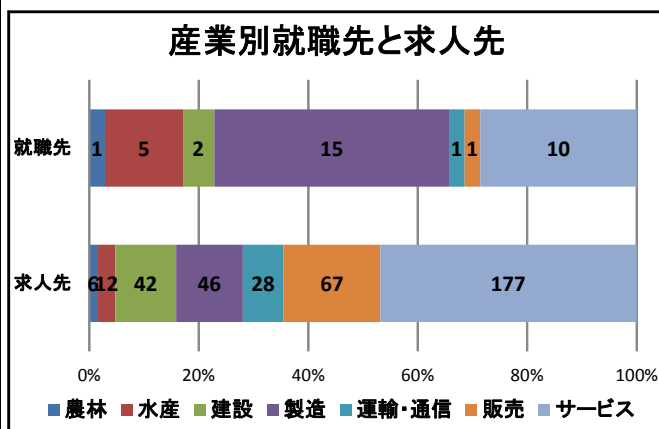
船舶）1名が内定となっています。

初めに書きましたが、今年度は多くの求人がありました。今回学校で受け付けた求人と就職先について調査してみたのでお知らせします。



少し見にくいですが、上のグラフは県内と県外の求人を産業別に表したもので、数字は求人件数を表します。グラフから県外の求人はサービス業の割合が圧倒的に多く、県内求人は県外に比べ建設業と製造業の割合が高くなっているのがわかります。これは島根県と都市部を中心とする県外との産業構造の違いだと思われます。また、サービス業の中でもホテル・旅館業及び外食産業を含めた、宿泊・飲食業界からの求人がサービス業全体の41%を占め最も多くなっています。続いて生活・娯楽26%、医療・福祉19%となりました。

次は学校が受け付けた求人と、3年生の就職先を産業別に表したグラフです。求人先の数字は求人件数を、就職先の数字は就職者数を表します。



本校生徒の就職先として特徴的なのは、製造業からの求人は全体の12%であるのにたいし、就職する生徒の割合は就職者全体の43%と高くなっているところです。また、水産業からの求人はわずか3%にもかかわらず、就職者は全体の14%と求人に比べて高い割合となりました。まあ本校は水産高校なのでこの数字が当たり前なのかも知れませんね。

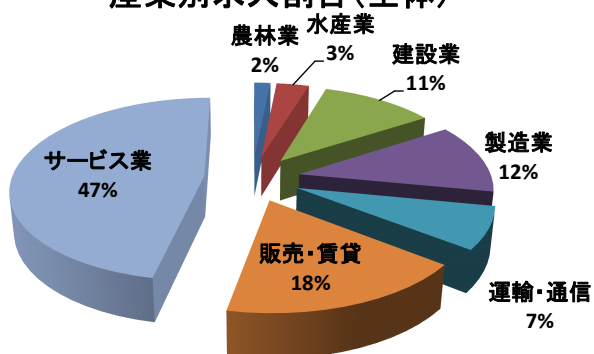
逆に就職者の割合が少なくなっているのが販売や建設業です。また、サービス業は求人数から見れば少ないのかも知れませんが、それでも就職者は28%

で割合としては2番目に高くなっています。

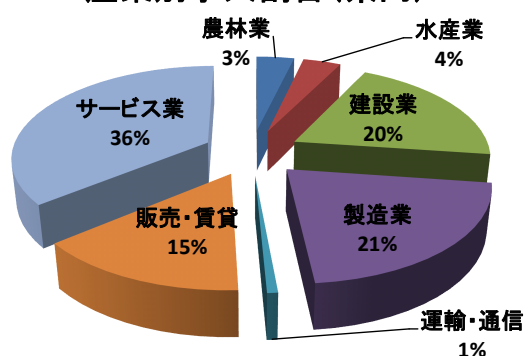
このように調べていくと、現在どのような業種が人を求めているか。また、本校の生徒がどのような業種を希望する傾向があるのか、あるいは求人と就職希望業種とのギャップがどこにあるか、などが見えてきます。以上が現在の進路傾向です。

昭和50年代までは、多くの卒業生が関西・広島など県外へ就職していましたが、現在は県内への就職がメインです。しかし、在籍している県外からの生徒たちが、卒業後それぞれの出身地へ帰って就職したとき、関西浜水会や広島支部へ積極的に参加してくれるように育てていきたいと思っていますので、皆さんよろしくお願ひします。

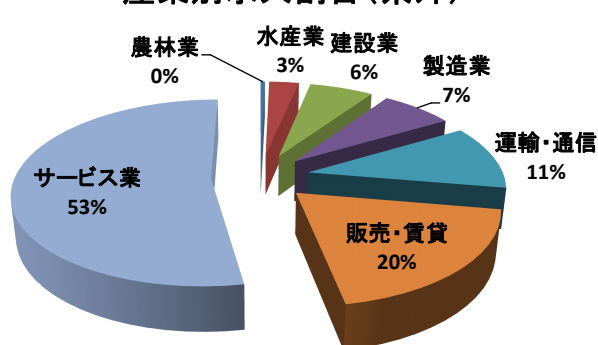
産業別求人割合(全体)



産業別求人割合(県内)



産業別求人割合(県外)



同窓会事務局の物置(?)を片付けているときに古い写真を見つけました。まだまだ他にもたくさんありましたので、少しずつ皆さんに披露したいと思います。また、皆さんがお持ちの浜田水産高校に関する貴重な写真を事務局に貸して頂けたら喜びます。(電子データにして保存したいと思います。)



上の写真は「1964 TOKYO オリンピック記念」とあります。2020年に再び東京でオリンピックが開催されますが、その時にも写真を撮って比較してみたいですね。

右の2枚の写真は上が製造科の実習、下が機関科の実習のようです。制帽を着用している所に時代を感じます。



